

「MASP なんでも高座」

【発表内容概要】

2016年8月11日

氏名	長島 智 (ナガシマ サトル)	会社名	産業振興センター
電話等			
【テーマ】 (1) 自己紹介と概念データモデル手法の適用実績 (2) 概念データモデル手法を活用した中小企業支援 (補助金支援方法)			
【ねらい】 (1) 自己紹介と概念データモデル手法の必要性 (2) これからの企業支援方法			
【内容】 (1) 自己紹介と概念データモデル手法の必要性 出身地：新潟県 学生時代：野球少年 (小学校～大学) 趣味：テニス、麻雀 主な経歴 電話工事 海外電報交換システム開発、テレビリレーセンターなど 新規事業立上げ (ネットワーク事業) 開発センターのシステム技術 (開発標準) 製造系案件の営業活動支援 (提案、企画支援、プロジェクト立上支援) 製造系システム案件のPM (設計、開発) ・実績 (製紙、旅行、金属加工、電気メーカ、厨房メーカ、金融、海運など) 社内教育開発&講師 (開発標準) 企業コンサル外販向けのコンサル ・9社 (概念データモデル適用回数10回以上) 産業振興センター出向 (研究開発コーディネータ) 現在の役割： 中小企業に対して新技術・新商品・新事業創出の支援 ・支援企業数：約70社 (継続支援企業50社) ・補助金獲得数：約3年間で50件以上 概念データモデル手法適用ポイント ・トップの理解が必要 (大手はトップセールスが必要) ・推進、指導する人は自分の考え方を主張しては適用できない。 ・主役は現場、現物を理解している企業の人			
(2) これからの企業支援方法 ・企業が自ら考え成長できる企業の育成 ・政策との連携 (国、県、市) ・企業間の連携 (マッチング) ・産学との連携 (マッチング) ・専門家の活用 (マッチング、専門家派遣) ・企業の寄り添う支援 (現場、現物の把握、問題、課題、思いの把握) ・有用な情報を伝える (政策、セミナー、大手ニーズ、補助金紹介など) ・新事業立ち上げ支援 (補助金作成支援：事業プラン作成支援)			